

# 被爆時に着ていた上着とズボン

寄贈／上原允子

上原晴彦さん(8歳)は、通学中に被爆。顔や両肩などに大やけどを負ったが、一命はとりとめた。しかし、一緒に通学中に被爆した兄や、勤労奉仕に向かう途中で被爆した母と妹を亡くし、自分の体にも生涯残るケロイドを負った晴彦さんは、79歳で亡くなるまで、原爆の話をするにはほとんどなかった。

## 寄贈者(晴彦さんの妻)のお話から

「夫は、平成28年(2016年)に亡くなるまで原爆の話はほとんどしませんでした。「当時はとても苦しかった」とだけ私たちに語った夫は、当日着ていたこの服を大切にしていました。生前、自身で資料館への寄贈を検討したこともあったようですが、結局手放すことはできなかったようです。」



上原さん一家 昭和16年3月26日撮影  
前列左から母・キヨさん  
(母に抱かれた)妹・八重子さん  
兄・武重さん、本人・晴彦さん  
(後列は兄・俊男さん。昭和19年に病死)